

西都市教育研究センター

I	研究主題と副題	・・・	10	-	1
II	主題設定の理由				
III	研究目標				
IV	研究関連図				
V	研究内容	・・・	10	-	2
1	さいと学研究班				
(1)	これまでの取組と方向性				
(2)	アンケートの実施				
(3)	デジタルコンテンツの作成及び普及活動	・・・	10	-	3
2	英語教育研究班	・・・	10	-	4
(1)	「読む・書く」活動を取り入れた授業展開				
(2)	展開事例集の改訂	・・・	10	-	5
(3)	小学生英語村の企画・実施	・・・	10	-	6
3	学力向上研究班	・・・	10	-	7
(1)	これまでの取組と方向性				
(2)	算数科学習状況調査の実施	・・・	10	-	8
(3)	算数科学習状況調査報告	・・・	10	-	9
VI	成果と課題	・・・	10	-	10
1	成果				
2	課題				
○	研究同人				

I 研究主題と副題

『教育ブランド西都』の具現化を目指して
～「さいと学」「英語教育」「学力向上」の取組をとおして～

II 主題設定の理由

本市は、教育基本法の理念と西都市民憲章の精神及び第4次西都市総合計画（前期基本計画：平成23年度から平成27年度）を基調として『たくましいからだ 豊かな心 すぐれた知性』を備え、郷土に対する誇りと国際感覚にあふれ、新たな時代を切り拓いていく気概をもち、心身ともに調和のとれた人間の育成』を目指している。

その具現化に向け、平成21年度より、すべての小中学校が教育課程特例校の指定を受け、『教育ブランド西都』の創造』をキャッチフレーズに、市内二校の県立高等学校とも連携し、全市を挙げて小中高一貫教育に取り組んでいる。

また、昨年度に銀上小学校・銀鏡中学校が、本年度から三納小学校・三納中学校及び三財小学校・三財中学校が施設一体型一貫教育校へと移行し、地域に根ざした特色ある学校づくりが進められているところである。

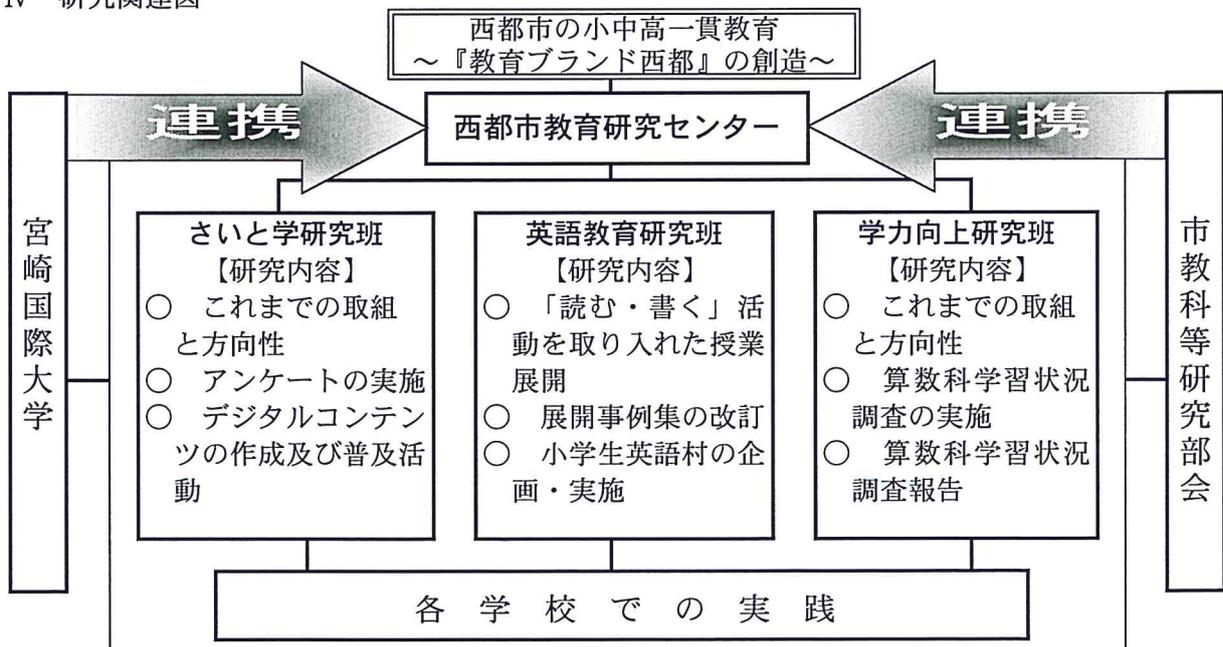
一貫教育の推進にあたっては、本センターもその一翼を担い、『教育ブランド西都』の具現化に向け、市教科等研究部会や宮崎国際大学と連携を図りながら、研究実践に取り組んでいるところである。本年度も継続研究を念頭に、昨年度までの取組の中で明らかになった課題を踏まえ、以下の三つの視点から研究を実践・深化させていくことで『教育ブランド西都』の具現化を目指そうと考え、本主題を設定した。

－研究の視点①－ 文化遺産等の豊富な教育資源を有する西都市の良さに気づき、『さいと学』を通して、ふるさと西都を愛する児童生徒を育成する。
－研究の視点②－ 小学校1年生から導入している連続性、一貫性を重視した英語教育を通して、国際人として活躍できる児童生徒を育成する。
－研究の視点③－ 視点①、②の基礎となる確かな学力を身に付けさせる。

III 研究目標

- 1 「さいと学」の活用状況の調査結果を生かすとともに、新たなデジタルコンテンツの開発・充実、活用をより一層図っていくことにより、ふるさと西都を愛する児童生徒の育成を目指す。
- 2 英語教育の充実に向けた組織間の連携強化を図るとともに、学習内容や指導方法、評価のあり方等について工夫改善することにより、国際人として活躍できる児童生徒の育成を目指す。
- 3 Web学習単元評価システムと連動した西都独自の問題の作成・活用を図ることにより、ふるさと西都を愛し、国際人として活躍するために必要となる確かな学力の定着を目指す。

IV 研究関連図



V 研究内容

1 さいと学研究班

「さいと学」は、ふるさと西都が大好きな児童生徒を育成することを主なねらいとしている。児童生徒が、西都市の自然・環境、歴史・伝統、産業・生活など、西都市の教育資源を活用しながら学習し、その特色や課題を理解する。その学習の中で、自分を見つめ直し、西都市の未来や自分についての生き方について考えることを通して、生涯に渡ってふるさとを愛する心と態度を育てる学習である。

【表1】デジタルコンテンツの充実に向けた取組

(1) これまでの取組と方向性

これまでの主な取組として、【表1】のように各学校の実態に応じた地域素材の活用事例や系統的な学習内容構成配列表を作成した。また、児童生徒用のテキスト作成及び教師用引き書きを作成した。平成22・23年度には、本研究センターホームページ上で自由に利用できるデジタルコンテンツの作成を開始し、授業ですぐに活用できる教材を提供できるようにした。そして、更なる充実を目指して平成24・25年度と取り組んできている。

	デジタルコンテンツの充実化に向けた取組と今後の方向性
平成22年度	○ さいと学Webページ開設 ○ 小学校用デジタルコンテンツ作成
平成23年度	○ 小学校4年生までの資料の追加 ○ 小学校5・6年生用の統一教材 ○ 中学校用のリンク集の追加
平成24年度	○ 小学校5・6年生及び中学校用のデジタルコンテンツの充実
平成25年度	◎ 小学校・中学校のデジタルコンテンツの更なる充実

本年度は、昨年度の課題であったデジタルコンテンツの充実を図るために、西都市内小中学校全教職員を対象にアンケートを実施し、その結果をもとにさいと学研究班としての方向性を定めて取り組んだ。

(2) アンケートの実施

本年度は【図1（一部抜粋）】のように全7項目を実施し、集計した結果以下の通りとなった。「さいと学のホームページを見たことがありますか。」という項目に対しては、【図2】のように小学校は見たことがあると約7割近く答えているが、中学校では約4割と少ない。理由は様々だが、中学校用のコンテンツが少なかったことが要因の1つであると考察した。見たことがないという理由には、ホームページへのアクセス方法が分からなかったという意見が多かった。また、「今後、掲載して欲しい資料には、どのような内容がありますか。」という項目に対しては、【図3】のような結果が出た。小学校では、各校の活動の様子などについて、中学校では、ワークシートを掲載していく必要があることが分かった。

2 さいと学のHPを見たことがある。 ()ある ()ない

3-1 2で「ある」と答えた方のみ回答してください。HPを見た回数は何回ですか。 ()1回のみ ()複数回

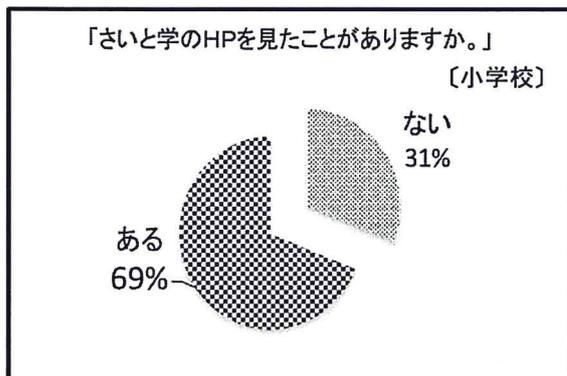
3-2 2で「ない」と答えた方のみ回答してください。それは、どうしてですか。(複数回答可)
()HPの存在を知らない ()HPへのアクセス方法がわからない
()ワークシートなどのダウンロードの方法がわからない

その他

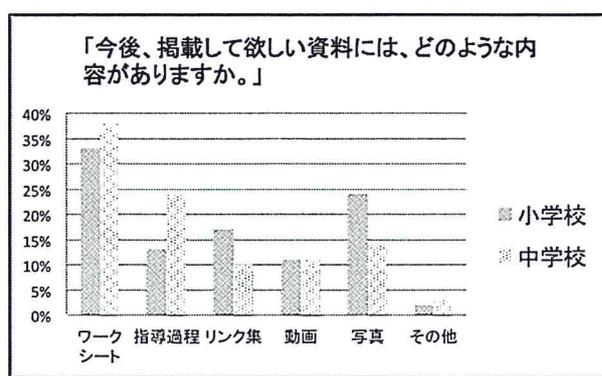
4 HPに掲載されている資料を活用して授業をしたことがある。 ()ある ()ない

5 4で「ない」と答えた方のみ回答してください。その理由を下記より選んでください。
()学習意欲に上がっていない ()使いにくい ()その他

【図1】さいと学アンケート



【図2】アンケート結果①



【図3】アンケート結果②

(3) デジタルコンテンツの作成及び普及活動

アンケート結果から今年度の活動の方向性を「教職員のニーズに応じたデジタルコンテンツの作成及び収集」、「デジタルコンテンツの普及」とした。

ア 教職員のニーズに応じたデジタルコンテンツの作成

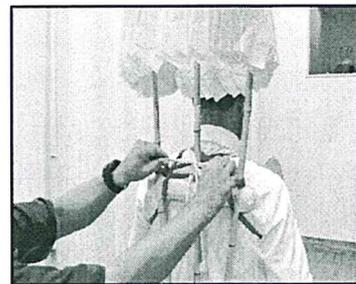
(7) 小学校

○ クイズの作成

「さいと学」で学習したことは、知識として残りにくく、また学習したことを更に定着させたいという教職員からの意見も出されたため、いくつかの題材においてクイズを作成し、学習の導入や発展として活用できるようにした。

○ ひもろぎ装着動画改訂版及び太鼓装着動画の作成

西都市小学校5、6年生が踊る「子ども白太鼓踊り」は西都市の伝統芸能として大切に踊られている一つである。昨年度は、市小学校体育主任会と連携し、「子ども白太鼓踊り」の動画をデジタルコンテンツとして作成した。本年度は、「子ども白太鼓踊り」で使用する「ひもろぎ」の装着の仕方が分かりにくいということで、以前作成していた動画に文字を入れ、初めての人でも分かりやすいように修正を行った。また、同じく「子ども白



【図4】太鼓装着動画

太鼓踊り」で使用する太鼓の装着は、各校統一した方法がなかったため、市小学校体育主任会の了解を得て、【図4】のようにデジタルコンテンツとして作成した。

○ 学習活動の様子

アンケート結果から他校での「さいと学」の取組の様子を知り、学習活動の参考にしたいという意見が出された。そのため、小学校6年生の学習活動の様子を3校分デジタルコンテンツとして作成した。

(1) 中学校

○ デジタルコンテンツ（ワークシート）の収集

市内中学校の教職員の協力を得て、各校・各自で使用しているワークシートを収集し、デジタルコンテンツとして追加した。

イ デジタルコンテンツの普及活動

(7) 広報誌及び「アクセス方法丸分かりガイド」の作成

アンケートにおいて、デジタルコンテンツの内容や教育研究センターの取組内容をPRすることにより、デジタルコンテンツの活用が増加するのではないかという意見が出されたことを受け、【図5】のように広報誌を作成し周知を図った。また、ホームページへのアクセス方法を写真と解説付きでまとめ、「アクセス方法丸分かりガイド」として掲載した。

(1) デジタルコンテンツ一覧表の普及

西都市小中学校全教職員が集まる場において、昨年度作成したデジタルコンテンツ一覧表の活用を促すとともに、全教職員に配付した。



News

西都市教育研究センター通信

第 1 号

平成 25 年 11 月 19 日

発刊の趣、及ますお奨励のことお喜び申し上げます。
 夏休みには西都市教育研究センターの中間報告を行い、市内の先生方には本センターの取組を知って頂けたこと
 と思います。今後も情報を発信することで、日々の授業に少しでも、役立てていただければ幸いです。西都市教育
 研究センター通信「SAITO News」を発行することになりました。どうぞ、よろしくお願ひします。

【さいと学研究部】

デジタルコンテンツ
新たにアップ!!

さいと学のデジタル資料を新たにアップしました。ぜひ、御活用ください。

他の学校の取組も、
ぜひ、見て参考にし
てください!

学年	單元名・学習内容	掲載するデータ	種類
小学校4年	特定の用水路と産作物について調べよう	原田久右衛門クイズ	ワークシート
小学校6年	下永坂白太鼓踊り	下永坂白太鼓踊りクイズ	ワークシート
中学校1年	伊東マシヨについて	伊東マシヨクイズ 調べ学習ワークシート クイズのワークシート	ワークシート

【図5】広報誌「SAITO News」

2 英語教育研究班

(1) 「読む・書く」活動を取り入れた授業展開

ア 英会話科における「読む・書く」活動（アルファベット）の導入実施

昨年度、英会話科（小学校5・6年）において、「読む・書く」活動を取り入れた授業を行うにあたり、その内容について整理し、【表2】のように系統表を作成した。また、この系統表に基づき、学習指導過程モデルを提案した。一単位時間45分の時間配分は、導入を5分、展開前半として「読む・書く」活動を10分、展開後半として年間計画に位置付けられた内容を25分、まとめを5分とした。めあてについては、「読む・書く」活動のめあてと、年間計画に位置付けられた目標の二つのめあてを設定することにした。本年度は、この考え方に基づき授業実践を行った。

【表2】英会話科における「読む・書く」活動の系統表

学年		5年			6年		
学期		1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
アルファベット	読む	【展開前半】		【機をみて】	【展開前半】		【機をみて】
		大文字⇒小文字 (判断できるようになる)			大文字・小文字 (判断できる・復習)		フォニックス
	書く	【展開前半】		【機をみて】	【展開前半】		
		大文字⇒小文字	大文字・小文字	大文字・小文字	大文字⇒小文字	大文字・小文字を自由に	
		(空書き)			(四線上)		
ヘボン式ローマ字		3年生で習ったローマ字の復習(読む・書く)		ヘボン式ローマ字を知り・覚える(読む・書く)	ヘボン式ローマ字の復習(読む・書く)		単語・名前・文などをヘボン式ローマ字で読み、書く。
英単語		名詞を中心に、普段使っている言葉について目や耳で慣れさせる。			動詞を中心に、普段使っている言葉について目や耳で慣れさせる。		
※単語のスペルは、小学校1年生から授業の中で見せて慣れさせる。							

イ 英会話科授業のモデル（役割分担）

授業に「読む・書く」活動を取り入れる際、小学校6年生と、小学校1年生から5年生の指導者人数に違いがあるため、【表3】のように、役割分担を整理した。小学校6年生のT1は中学校英語科教員が担い、授業全体の進行・目標の提示・文字指導を行う。【図6】がT1、【図7】がT2、【図8】がT3の指導の様子である。

【表3】英語活動・英会話科 役割分担

		小学校1年生から5年生		小学校6年生	
分担	担当	内容		担当	内容
T1	学級担任	授業の全体的な把握、進行児童の支援、資料等の準備 目標の提示 文字について身体表現 (1年～4年) 文字指導(5年)		中学校英語科教員	授業の全体的な把握、進行目標の提示 文字指導
T2	ALT	文字指導後の展開 発音・デモンストレーション		ALT	文字指導後の展開 発音・デモンストレーション
T3				学級担任	児童の支援 資料等の準備



【図6】T1
展開前半、文字指導



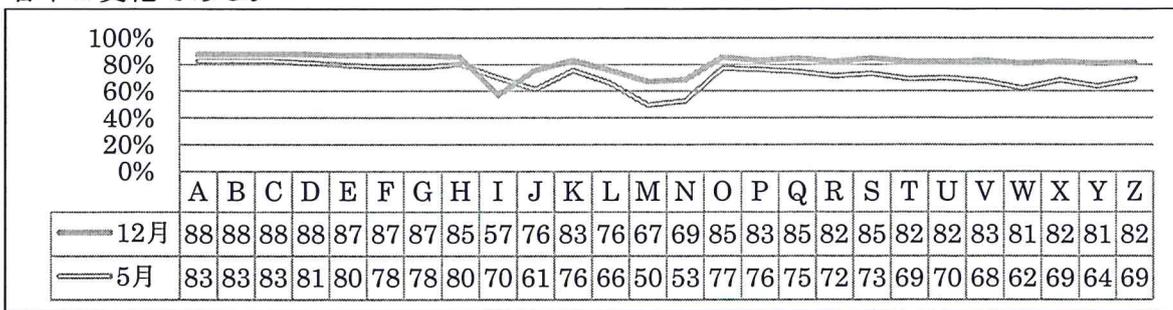
【図7】T2
展開後半、文字指導後の展開



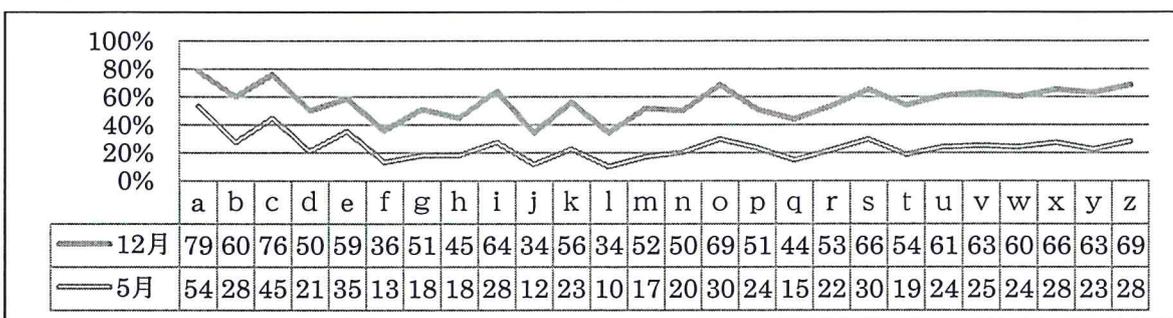
【図8】T3
展開後半、児童の支援

ウ 英会話科における「読む・書く」活動（アルファベット）の導入検証

本年度は、アルファベット大文字・小文字の「読む・書く」活動に絞り、授業実践を行い、検証することにした。検証の方法は、アルファベットの書きにおける正答率の変化である。正答率の変化は、アルファベット大文字・小文字の書きについて5月段階と12月段階の正答率を比較することにした。【図9】が大文字、【図10】が小文字の正答率の変化である。



【図9】アルファベット大文字の正答率変化 ※抽出校6年生（12月131名・5月127名）

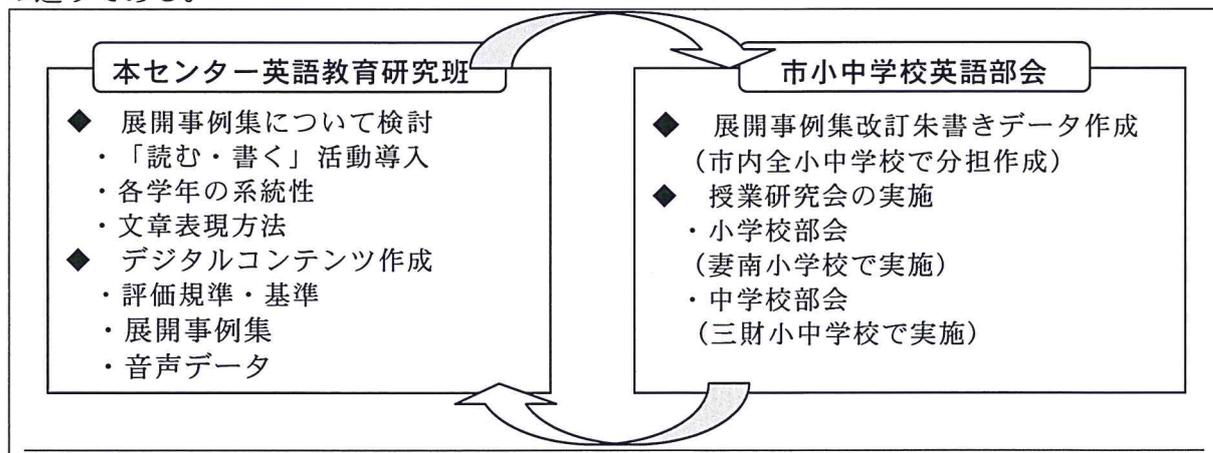


【図10】アルファベット小文字の正答率変化 ※抽出校6年生（12月131名・5月127名）

このように、アルファベット大文字については、I以外の文字すべてに向上が見られ、小文字については、すべての文字に向上が見られた。このことから、「読む・書く」活動（アルファベット）の導入は効果があると考えられる。

(2) 展開事例集の改訂

展開事例集を、市小中学校英語部会と連携し、改訂した。本年度の連携概略は【図11】の通りである。



【図11】本センター英語教育研究班と市小中学校英語部会の連携概略

展開事例集の改訂は、市小中学校英語部会が朱書きデータを作成し、本センター英語教育班が、「読む・書く」活動を取り入れた学習指導過程モデルに従い、修正を加える形で連携を図った。

本年度中に、1・2学期分展開事例集の修正作業を行い、来年度4月の段階で、展開事例集の改訂版として配付予定である。3学期分の改訂版については、平成26年度1学期に配付し、差し替えを行う計画である。

また、改訂版展開事例集のトップページに、前述の【表2】英会話科における「読む・書く」活動の系統表及び学習指導過程モデル、【表3】英語活動・英会話科役割分担を掲載し、本市の英語活動・英会話科の授業の進め方について周知していくこととした。

(3) 小学生英語村の企画・実施

ア 宮崎国際大学との連携（学生による企画）

小学生英語村は、宮崎国際大学と連携し、本年度で3年目を迎える。昨年度までは、本センターが企画し、大学の教授・学生と協力し実施してきた。本年度は、更に英語村を充実させるため、学生のもつ柔軟な発想を取り入れることにした。

そこで、学生が中心となった企画・実施を行い、本研究センターがアドバイザーという立場に切り替えた。分担については【表4】の通りである。

企画については、学生による企画プレゼンコンペティションを実施した。その中から、参加児童に英語村という場で世界旅行を体験させようという企画が出され、実施することになった。

【図12】が企画プレゼンコンペティションの様子である。

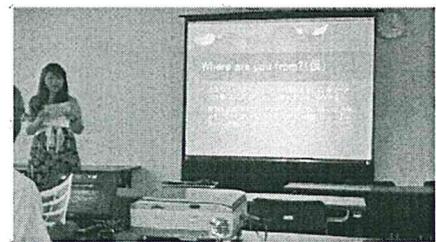
この切り替えにより、学生の主体性が尊重され、スタッフとして参加する学生が増加し、より充実した英語村へと発展させることができた。

イ 小学生英語村の実際

小学生英語村の参加対象者は市内の小学校6年生全児童である。本年度も夏季休業中の7月30日（火）、31日（水）の2日間で実施した。体験活動については、世界旅行というコンセプトで、諸外国の文化に触れ、英語を通してコミュニケーションを図るため、アメリカ（ハワイ）他8か国、10の地域（教室）を設定した。各国の内容については、【表5】のように英語を使う機会が多くもてるように、活動を工夫した。

【表4】小学生英語村の企画・実施分担

順	内容	宮崎国際大学学生	本センター
1	企画提案	学生による企画プレゼンコンペティション 7グループ・55名の参加	質疑 アドバイス
2	打ち合わせ	本研究センター研究会に参加 企画の完成・準備物確認	学生と共に企画の練り上げ 企画の完成・準備物確認
3	実施	学生が中心になり、実施	参加児童職員に対する オリエンテーション実施
	準備物等	英語村会話フレーズ集 英語村マップ・各国お土産 会場設営	グループ編成 児童用パスポート作成 各国をイメージした写真



【図12】企画プレゼンコンペティション

【表5】各国の内容

活動及び時間	内容	基本文	活動の様子
1. 入国審査 1分	パスポートを提示して教室に入る。	Hello. What is your name? Welcome to(国名/地域名). Enjoy your day!	
2. Activities ①ご当地クイズ 10～15分	児童がネイティブの先生に英語で質問する。	What is a famous food in (国名/地域名)? What is the capital of(国名)? Who is a famous person in (国名/地域名)?	
② 買い物 10～15分	1. 英語で話しながら、各国・各地域のお土産、ご当地で有名なものを買う。 2. 紙幣はあらかじめ配っている、体験活動用の紙（当日会場で配付）を使う。	I want to buy (商品の名前). How much is (商品の名前) /it?	
③ 写真 10～15分	1. 教室を出ていくときに、ネイティブの先生と写真を撮る。 2. Photo booth を背景に写真を撮ったら、ミッション終了。写真は当日プリントアウトしその日のうちにもって帰らせる。	Can you take a picture with me / us?	

3 学力向上研究班

(1) これまでの取組と方向性

本研究班では、平成23年度より宮崎県教育委員会作成の「Web学習単元評価システム」（以下「県Web」）の「小学校算数学習単元評価問題」をもとに、学期末の学習状況の評価と習熟をねらった「ジャンプアップ西都」という名称の評価問題を作成してきた。平成24年度までに「県Web」の各単元の評価問題から基礎・基本を問うA問題を集約し、「ジャンプアップ西都（A問題）」を小学校全学年・全学期分と中学校の一部を作成した。そして、活用する力を問うB問題を作成し、児童生徒の実態に応じてA問題とB問題を使い分けるこ

8 □にあてはまる数を書きましょう。

(1) □人の $\frac{3}{5}$ は60人です。



【図13】「ジャンプアップ西都」6年1学期A問題とで、基礎・基本の学習状況や活用する力の学習状況をそれぞれ評価できるようにした。

「ジャンプアップ西都」は三つの特徴を備えている。一つ目は、「ジャンプアップ西都」は各学期1枚ずつ計3枚作成されており、用紙1枚に学期分の洗練された算数科学習評価問題を集約したことである。少なくともA問題については、短時間の実施により児童の算数科の学習定着状況を把握することができるため、学期末や学年末の実施で習熟度を調べたり、新学期にレディネスの状況を把握するために活用したりすることができる。二つ目は「県Web」と連動できるよう各設問内に

【図13】のようにマークを示したことである。「ジャンプアップ西都」の実施後、定着が不十分

と判断した場合は、そのマークが示す「県Web」の問題に立ち返ることが可能である。計画的に活用していくことで、児童生徒の学習状況をよりきめ細やかに把握することができ、学習内容の確実な定着を図ることができる。三つ目は【図14】のように小中学校各学年の各学期の「ジャンプア

学習の部屋				
算数・数学コーナー				
この問題は、各学年の基礎的・基本的問題を学期ごとに1枚のプリントにまとめたものです。				
A問題	1学期	2学期	3学期	
小学1年生	問題① 問題①解答	問題② 問題②解答	問題③	問題③解答
小学2年生	問題① 問題①解答	問題② 問題②解答	問題③	問題③解答
小学3年生	問題① 問題①解答	問題② 問題②解答	問題③	問題③解答
小学4年生	問題① 問題①解答	問題② 問題②解答	問題③	問題③解答
小学5年生	問題① 問題①解答	問題② 問題②解答	問題③	問題③解答
小学6年生	問題① 問題①解答	問題② 問題②解答	問題③	問題③解答

【図14】「ジャンプアップ西都」Web ページ

ップ西都」 (<http://www.miyazaki-c.ed.jp/saitokkc/>) をダウンロード可能な状態でアップロードしたことである。この結果、児童生徒が自主的な学習のため

【表6】「ジャンプアップ西都」点数集計票の問題や教師が出す宿題、そして家庭学習等で「ジャンプアップ西都」を活用することが可能になった。

更に平成24年度には研究員の学級や、市内小中実施協力校で「ジャンプアップ西都」の試験的な活用を図った。各校で実施するスキルタイムの時間（各校15～20分）を活用し、学期末に「ジャンプアップ西都」による指導実践を行った。その結果、【表6】のように回数を重ねるたびに定着が進んでいったことや、一度満点を取っても2回目に取れるとは限らないことが分かった。更に、CRTの結果にも伸びが見られたとの報告があった。これまでの取組を受け、「ジャンプアップ西都」の整備から、その特徴を生かした活用法を研究することが今後の課題となった。

平成24年度 3年1組 児童名簿 (ジャンプアップ西都) 1学期												
氏名	7/5 正解		7/2 正解		7/2 宿題		7/9 正解		7/9 宿題		7/9 正解	
	問	答	問	答	問	答	問	答	問	答	問	答
1	70	100	90	100	100	50	75	100				
2	85	100	85	100	100	65	100	85				
3	100	100	100	90	100	70	100	100				
4	75	70	80	30	50	0	75	70				
5	90	100	100	100	75	50	100	100				
6	100	100	100	0	100	70	100	90				
7	65	75	75	85	85	10	95	80				
8	100	100	100	8	100	100	100	100				
9	50	85	85	75	75	30	100	70				
10	100	75	95	100	100	20	85	100				
11	100	100	100	8	100	85	100	100				
12	100	100	100	8	100	85	100	100				
13	100	100	100	8	100	85	100	100				
14	100	100	100	8	100	85	100	100				
15	100	100	100	8	100	85	100	100				
16	100	100	100	8	100	85	100	100				
17	100	100	100	8	100	85	100	100				
18	100	100	100	8	100	85	100	100				
19	100	100	100	8	100	85	100	100				
20	100	100	100	8	100	85	100	100				
21	100	100	100	8	100	85	100	100				
22	100	100	100	8	100	85	100	100				
23	100	100	100	8	100	85	100	100				
24	100	100	100	8	100	85	100	100				
25	100	100	100	8	100	85	100	100				
26	100	100	100	8	100	85	100	100				
27	100	100	100	8	100	85	100	100				
28	100	100	100	8	100	85	100	100				
29	100	100	100	8	100	85	100	100				
30	100	100	100	8	100	85	100	100				
31	100	100	100	8	100	85	100	100				
32	100	100	100	8	100	85	100	100				
33	100	100	100	8	100	85	100	100				
34	100	100	100	8	100	85	100	100				
35	100	100	100	8	100	85	100	100				
36	100	100	100	8	100	85	100	100				
37	100	100	100	8	100	85	100	100				
38	100	100	100	8	100	85	100	100				
39	100	100	100	8	100	85	100	100				
40	100	100	100	8	100	85	100	100				
41	100	100	100	8	100	85	100	100				
42	100	100	100	8	100	85	100	100				
43	100	100	100	8	100	85	100	100				
44	100	100	100	8	100	85	100	100				
45	100	100	100	8	100	85	100	100				
46	100	100	100	8	100	85	100	100				
47	100	100	100	8	100	85	100	100				
48	100	100	100	8	100	85	100	100				
49	100	100	100	8	100	85	100	100				
50	100	100	100	8	100	85	100	100				
51	100	100	100	8	100	85	100	100				
52	100	100	100	8	100	85	100	100				
53	100	100	100	8	100	85	100	100				
54	100	100	100	8	100	85	100	100				
55	100	100	100	8	100	85	100	100				
56	100	100	100	8	100	85	100	100				
57	100	100	100	8	100	85	100	100				
58	100	100	100	8	100	85	100	100				
59	100	100	100	8	100	85	100	100				
60	100	100	100	8	100	85	100	100				
61	100	100	100	8	100	85	100	100				
62	100	100	100	8	100	85	100	100				
63	100	100	100	8	100	85	100	100				
64	100	100	100	8	100	85	100	100				
65	100	100	100	8	100	85	100	100				
66	100	100	100	8	100	85	100	100				
67	100	100	100	8	100	85	100	100				
68	100	100	100	8	100	85	100	100				
69	100	100	100	8	100	85	100	100				
70	100	100	100	8	100	85	100	100				
71	100	100	100	8	100	85	100	100				
72	100	100	100	8	100	85	100	100				
73	100	100	100	8	100	85	100	100				
74	100	100	100	8	100	85	100	100				
75	100	100	100	8	100	85	100	100				
76	100	100	100	8	100	85	100	100				
77	100	100	100	8	100	85	100	100				
78	100	100	100	8	100	85	100	100				
79	100	100	100	8	100	85	100	100				
80	100	100	100	8	100	85	100	100				
81	100	100	100	8	100	85	100	100				
82	100	100	100	8	100	85	100	100				
83	100	100	100	8	100	85	100	100				
84	100	100	100	8	100	85	100	100				
85	100	100	100	8	100	85	100	100				
86	100	100	100	8	100	85	100	100				
87	100	100	100	8	100	85	100	100				
88	100	100	100	8	100	85	100	100				
89	100	100	100	8	100	85	100	100				
90	100	100	100	8	100	85	100	100				
91	100	100	100	8	100	85	100	100				
92	100	100	100	8	100	85	100	100				
93	100	100	100	8	100	85	100	100				
94	100	100	100	8	100	85	100	100				
95	100	100	100	8	100	85	100	100				
96	100	100	100	8	100	85	100	100				
97	100	100	100	8	100	85	100	100				
98	100	100	100	8	100	85	100	100				
99	100	100	100	8	100	85	100	100				
100	100	100	100	8	100	85	100	100				

そこで、本年度は「ジャンプアップ西都」の特徴を生かした活用を図り、ふるさと西都を愛し、国際人として活躍するための確かな学力の定着を目指し研究を進めることとした。そのために、「短時間で実施できること」「習熟度や定着度・レディネスを把握できること」という「ジャンプアップ西都」の特徴を生かし、小学校と中学校が連携して学力向上を図ることはできないかと考えた。そして現時点での算数科の学習状況を把握し、学力向上に生かす方策を探った。

(2) 算数科学習状況調査の実施

ア 実施の要請

本年度6月、西都市内の中学校1年生全員(268名)を対象に、【表7】の要領で各学校に実施を依頼し、【図15】の「ジャンプアップ西都」6年A問題3枚を用いた算数科学習定着度の状況調査を実施した。この調査は、市内各中学校に実施を要請し、実施後は全答案を回収し【図16】のように本センターで採点を行った。

イ 結果の集計

採点終了後、各問題別に正解数・不正解数を集計した。集計の結果は数値化し、全平均正答率を出した。また、学校別の数値や西都市全体平均も集計した。

ウ 集計結果の分析

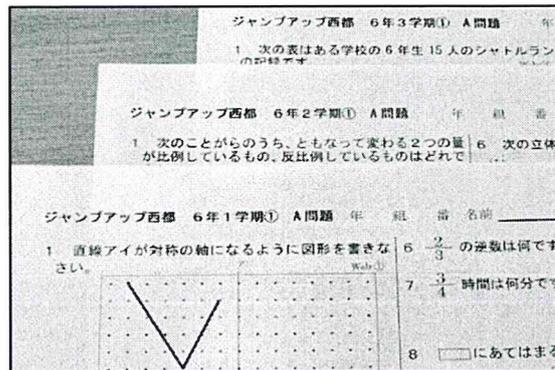
【表8】のような集計を行い、正答率が50%を下回る問題をピックアップし、誤答例から間違えた理由を特定した。更に、受検者全体の誤答の傾向を探った。

エ 分析結果の報告と提案

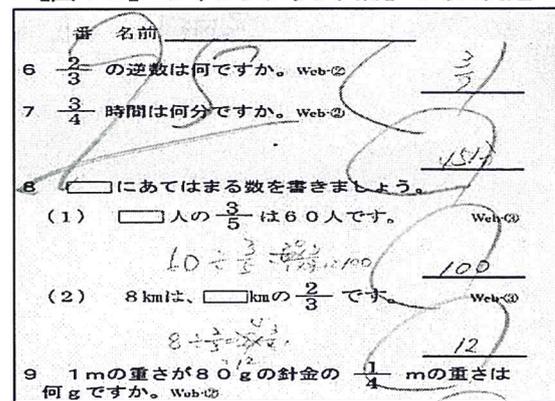
市内各中学校に、【図17】のような形で「各中学校別の正答率」「市全体の平均正答率」を報告した。また卒業した小学校にも同様の報告を行った。その際、職員研修等で自校の実態と状況の把握として活用したり、正答率が高かった問題や低かった問題については小学校の全職員で共通理解したりすることを提案した。また、中学校の数学科の先生方に小学生時の算数科の習熟度を認識してもらうための資料として活用をお願いした。

【表7】算数科学習状況調査実施要領

対象	各校中学1年生全員
要領	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生を3グループに編成する。 ・各グループの生徒に学期分1枚の「ジャンプアップ西都」6年A問題に取り組みさせる。 ※問題は各学期1枚で計3枚 ・採点集計を行う。ただし学校間比較は行わない。



【図15】「ジャンプアップ西都」6年A問題



【図16】採点後の問題

【表8】算数科学習状況調査集計表

6年2学期		正解数	不正解数	数の正解数	単位の不正解の例	不正解の例
1	6	6				比列 ②/3④ Rin: ①②④
2-(1)	11	1				$\frac{x}{20} = \frac{3}{100}$ $x = 20 \times \frac{3}{100}$
2-(2)	12	0				
3-(1)	11	1				$\frac{x}{9} = \frac{1}{5}$ (5) $\frac{6}{6}$ (6) (7) 10 $\frac{3}{5} = \frac{6}{10}$ (5) $\frac{5}{5}$ (5) $\frac{6}{6}$ (6) (7) 10
3-(2)	9	3				$\frac{1}{2} = 24 \times x$, $45 \times x = \frac{1}{2}$
4-(1)	6	6	2	cm, cm ³	20cm ³ , 197.892cm, 184092, 628cm	

6	$\frac{2}{3}$ の逆数は何ですか。Web②	正答率99%	$\frac{3}{2}$
7	$\frac{3}{4}$ 時間は何分ですか。Web②	正答率69%	45分
8	□にあてはまる数を書きましょう。 (1) □人の $\frac{3}{5}$ は60人です。Web③	正答率78%	100
	(2) 8kmは、□kmの $\frac{2}{3}$ です。Web③	正答率90%	12

【図17】解答と正答率を記入した配付資料

VI 成果と課題

1 成果

- さいと学研究班
 - ・ 小中学校職員のニーズを把握し、それに応じたデジタルコンテンツを作成することができた。また、活用を図るための広報誌の作成、デジタルコンテンツ一覧表の配付等のPR活動を行うことができた。
- 英語教育研究班
 - ・ 英語活動・英会話科における教員とALTの役割分担を整理し、「読む・書く」活動（アルファベット）を取り入れた導入を実践することで、児童のアルファベットを書く力が向上してきた。
 - ・ 小学生英語村を宮崎国際大学の学生による企画・実践に切り替えたことで、学生の主体性が尊重され、スタッフとして参加する学生も増加し、より充実した英語村へと発展させることができた。
- 学力向上研究班
 - ・ 算数科学習状況調査の結果、定着している内容と定着が不十分な内容が明確になった。
 - ・ これまで以上に小中学校の系統性を踏まえた指導が重要であるという意識をもつことができた。
 - ・ 「ジャンプアップ西都」は、「県Web学習単元評価システム」と連携した問題で構成されており、定着が不十分な単元にフィードバックできるという利点を提示することができた。

2 課題

- さいと学研究班
 - ・ 更なるデジタルコンテンツの充実を図るとともに、さいと学のWebページを整理し、より利用しやすいものにしていく必要がある。
- 英語教育研究班
 - ・ 「読む・書く」活動を取り入れた導入（ヘボン式ローマ字とフォニックス）について授業実践を行ったり、英語活動・英会話科からつながる中学校英語表現科の授業実践に生かされているかを検証したりしていく必要がある。
- 学力向上研究班
 - ・ 基礎的・基本的な内容の定着度の確認をするために、継続的な調査を行う必要がある。
 - ・ 算数科学習状況調査報告を活用した啓発の在り方を考えていく必要がある。

《研究同人》

所長	竹之下 悟（西都市教育委員会教育長）		
主任研究員	井上 勝徳（茶臼原小学校）		
研究員			
さいと学研究班			
中山 哲也（妻南小学校）	田口 正子（妻北小学校）	児玉 寿（穂北小学校）	
八木 彩香（三納中学校）	田村 智宣（銀鏡中学校）		
英語教育研究班			
松浦 寿人（三財小学校）	水田 幸児（妻北小学校）		
寺田 美幸（妻 中学校）	下川奈緒子（穂北中学校）	富田 兼三（都於郡中学校）	
学力向上研究班			
吉野 達三（都於郡小学校）	須本 康仁（妻南小学校）	上野美和子（穂北小学校）	
結城真一郎（三財中学校）			
事務局	日高 政志	明松 伸浩	高山めぐみ（西都市教育委員会 学校教育課）